

大会企画シンポジウム③

【会 場】 メインホール

2016年11月19日（土） 15：30～17：30

言語の違いによる読み書き障害とその支援

企画者	牟田 悅子	成蹊大学
司会者	竹田 契一	大阪医科大学 LD センター
話題提供者	原 恵子	上智大学
話題提供者	Taeko Wydell	ブルネル大学
話題提供者	Heikki Lyytinen	ユヴァスクニラ大学
指定討論者	宇野 彰	筑波大学

※文字通訳・同時通訳あり

【企画の趣旨】

読み書き障害のあらわれ方は、言語体系によって異なるといわれる。日本語のかな文字は1音と1文字が対応するために入門期は英語に比べると学習は容易だが、漢字の学習、長文の読解になると困難さは増す。英語の学習になって困難さが出現する子どももいる。日本の英語教育における読み書き障害への対応はこれからである。フィンランド語はアルファベットを用いるが、音と文字の対応が一貫した“透明性の高い”言語である。しかし、読みの困難への支援を受ける子どもは多くいる。言語によって支援に違いはあるのか、共通性は何なのか。フィンランド語、英語、日本語の読み書き障害の研究と支援の第一線で活躍されている3人の方々からの報告と討議によって、検討したい。